

岐阜県 難聴児支援センターだより

● 片耳がきこえにくい子のセミナー ●

■ 岐阜大学医学部附属病院 9:30~11:00 令和6年11月10日

講話 テーマ：一側性難聴について ～一側性難聴の体験談も交えて～

講師：松波総合病院 耳鼻咽喉科医師、岐阜大学医学部附属病院招聘教員 小川博史先生

今回の片耳がきこえにくい子のセミナーには、会場18組46名、オンライン3名の皆様にご参加いただきました。セミナーの最初に岐阜大学医学部附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 臨床講師、助教、岐阜県難聴児支援センター副センター長の小原奈津子先生より、ご挨拶をいただき、一側性難聴のお子さんの聴力や耳の管理、原因検索等についてもご説明いただきました。

講話では、松波総合病院の小川博史先生が、①ご自身の体験談、②一側性難聴の特徴・問題点、③一側性難聴の人が持つ悩み、④自分たちができること・将来について、の4つの視点からお話をしてくださいました。①では、ご自身の学校生活、部活動、友達関係、社会人(医師)としての体験をお話いただき、参加者の方々はロールモデルとして、これからお子さんが大きくなっていく過程での姿を重ねられている様子でした。②、③では、調査結果等データ等でいくつか示され、なるほどと思うと共に、保護者さん達があまり気にかけたことがないお子さんの「聞き疲れ」についても触れられていました。④では医療面のことや助成のことにも触れられました。締めくくりにして、やはり、「信頼できる人を作ること」(人間関係作り)が大切とお話がありました。

交流会では、0~1歳のお子さん、小1~4年生のグループに分かれました。0~1歳児のグループには、2か月から1歳半までの月齢の参加者10組が参加されました。自己紹介をしながら、皆さんと交流したい話題について話していただく、補聴器について、就園や就学について、医療的な見通しについて、ネットワーク作りについて等があげられました。講演をいただいた小川先生や当センターアドバイザーの森林言語聴覚士から説明や助言をしていただきながら、積極的な意見が交わされました。交流会の中では参加者同士の直接的な交流の時間がとれなかったのですが、終了後に声を掛け合われる様子も見受けられ、つながり作りの場になっていることが実感できました。

小1~4年生のグループでは、くじで引いた質問に答えるゲームをすることで、少しリラックスした雰囲気になりました。困ることとしては、意外に困ることはないという方もみえたり、聞こえにくい側からこそこそ話をされると聞こえない、片耳が聞こえにくいことを友だちに伝えていても、忘れられてしまい、無視されたと言われてしまうことがある等の話が出ていました。保護者さんからは、「自分のお子さんが聞こえにくいと実感したタイミングは?」とか、「原因検索をされていますか?」等のお互いへの質問があり、情報交換をすることができました。



Vol. 14

令和7年1月

● 高山市 お子さんのきこえに関するファミリーセミナー ●

■ 高山市民文化会館 13:00~14:30

令和6年11月29日

講話 テーマ：きこえの発達や園・学校への合理的配慮の求め方

講師：岐阜大学教育学部特別支援教育講座 助教 鈴木祥隆先生

高山市のお子さんのきこえに関するファミリーセミナーは、岐阜大学教育学部特別支援教育講座の鈴木先生を講師にお招きしました。日頃、保護者さん達とお話の中で、保育園や学校等の場で、お子さんのことをどう伝えたら良いのだろうかといったお悩みをよくお聞きします。合理的配慮の提供が令和6年4月1日から、事業者も努力義務から義務になりました。合理的配慮の言葉は聞いたことはあるものの、実際に求めていくとなると、どうしたら良いのか分からないという声も聞きます。そこで、今回、鈴木先生にお願いをして、その辺りを分かりやすくご講話いただきました。

まずは、きこえにくさを考えるにあたって、そもそも「きこえる」ってどういうことなのかを体験を交えながら、参加者の方々に実感していただきました。音としては聞こえているけれど、言葉として聞きとれない、そのような体験に、一生懸命に聞き取ろうと参加者の方々が苦戦し、「ああ、そういうことなのね。」と驚いたり、納得する様子が見られました。視覚や聴覚といった情報の入力視点でもお話をいただき、とても分かりやすかったです。言葉を育てるには、知っているところからアプローチすること(ボトムアップ)、知らない角度からアプローチすること(トップダウン)の両方が必要であることもお話をいただきました。大事なことは、ご自分のお子さんのきこえの特徴をしっかりと保護者さんが知ること、そして、その上で先生等にどう伝えるかを考え、注意してみてほしいポイントの共通理解を図るのが良いとのことでした。

今回は、保護者さん2名、高山市の保健師さん4名、飛騨特別支援学校の長岡先生がご参加いただき、講話後の交流会も行いました。一番最初にお子さんに関わってくださるのが保健師さんなので、このようにご参加いただけるのは、とてもありがたいことです。保健師さんのお話の中で、まず最初は手厚く10割支援して、そこから引き算していくのが母子保健とのことで、その中で、保護者さんと保健師さんと一緒に心配なことを一つずつつぶしていくのお話が印象に残りました。保護者さんからは、高山市の難聴のお子さん達の様子等のご質問があり、飛騨特別支援学校の長岡先生から、ご説明をいただき、また、乳幼児期のお子さんとの関わり方についてのアドバイスもいただきました。



瑞浪市 お子さんのきこえに関するファミリーセミナー

令和6年11月29日

■瑞浪市役所西分庁舎 13:00~14:30

■講話 テーマ:きこえの発達や園・学校への合理的配慮の求め方

講師: 岐阜大学教育学部特別支援教育講座 助教 鈴木祥隆先生

瑞浪市でも岐阜大学教育学部特別支援教育講座の鈴木先生を講師にお招きして、お子さんのきこえに関するファミリーセミナーを行いました。保護者さん4名、保健師さん3名、放課後等デイサービスの方2名、小学校の先生、教育委員会の先生、恵那特別支援学校の梅村先生にご参加いただきました。講話の中で、「単語」を身振りで相手に伝え合う体験では、皆さんが表現力豊かに楽しんで行いながらも、抽象的な「単語」を伝える場面になると、悪戦苦闘しつつ、何とか相手に伝えようと頑張っている姿が印象的でした。

座談会では、参加者それぞれの立場での意見交流をすることができました。成長過程におけるお悩みだったり、お子さんとの関わりやコミュニケーションに関することだったり、思いを出し合いながら、お互いに共感したり、アドバイスし合ったりと、活発に意見交換ができました。鈴木先生や梅村先生からの教育的な視点でのアドバイスも聞くことができ、充実した時間となりました。



岐阜大学医学部附属病院 難聴児支援センター・ご利用案内

ご利用方法

■きこえの相談窓口【月~金 10:00~16:00】

■「きこえの相談日」は毎週火曜日 10:00~16:00

メール、FAXでの相談は随時対応させていただきます。(無料)

LINEでもご相談いただけます。▶



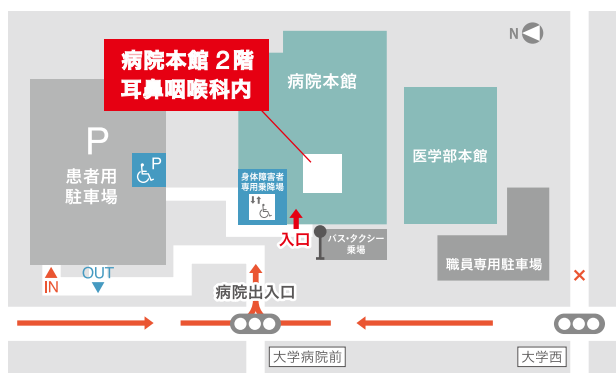
事前にセンターまでご連絡をお願いします。(無料)センタースタッフが対応いたします。

岐阜大学医学部附属病院 難聴児支援センターの場所

岐阜大学医学部附属病院本館2階
耳鼻咽喉科内

※お越しの際は、岐阜大学医学部附属病院本館1階総合受付にお声掛けください。

※急なご来院の際、相談室にスタッフが不在の場合は、外線等で難聴児支援センター事務室にご連絡ください。
電話番号 058-230-6198



交通アクセス・病院へのアクセス



●鉄道

【JR】
東海道本線「岐阜駅」で下車
【名古屋鉄道】
名鉄本線「名鉄岐阜駅」で下車

●バス

JR岐阜
名鉄岐阜

岐阜大学・病院線	／約30分
直行便 清流ライナー	／約25分
岐南町線	／約40分

岐阜大学
病院下車
料金
(360円)

発行: 岐阜大学医学部附属病院

〒501-1194 岐阜県岐阜市柳戸1番1
TEL 058-230-6198 FAX 058-230-6199

<https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/origin/gifu-deaf-center/>
E-mail: g_nantyo@t.gifu-u.ac.jp